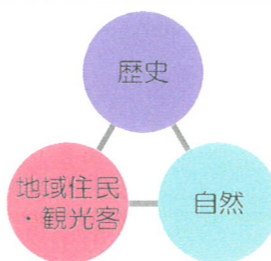


【 実施方針 】

基本方針

私たちは、水源地公園一帯の豊かな自然と景観を活用し、失われつつある魅力を取り戻し、再生を図るため、以下の点に配慮して設計いたします。

1. 公園の持つ歴史的背景を基に、地域の歴史に触れられる
2. 歴史的建造物や工作物を保存・再生し、誰もが歴史を体感できる
3. 深い森林や様々な植物が生える豊かな自然に触れ、楽しめる
4. 地域住民がいつでも使え、住民にとって身近な公園となるように再生する
5. 観光の拠点として、多くの観光客が立ち寄り、また来たいと感じられる
6. 学習や運動、休憩、飲食、集会といった、様々な行為ができる



業務への取組体制

- 設計スタッフ自らが何度もこの公園とその周囲を歩き、まずはこの公園の良い点や悪い点を十分把握することから始めなければなりません。関係職員の皆さんのほか、ワークショップに参加された方々と問題点を共有し、お互いの意見を十分理解することに努め、それによって得られる公園のあり方を再度検討することにより、よりよい施設が実現されるように努力します。
- 実施設計にあたっては、本プロポーザルでの提案を踏まえつつ、関係者の皆さんと綿密な協議を行い、相互に歩み寄って解決策を模索し、対話による信頼関係を築くとともに、期限を重視したスケジュール管理により、期限内に確実な設計成果を提出いたします。
- 建築設計事務所を開設後30年に及び実績の中で得られた、各種公共施設の設計経験を生かし、培った技術力・判断力・情報力・調整力を存分に発揮して、質の高い設計成果を提供します。

設計チームの特徴

- 管理技術者のほか各主任担当技術者は、その分野において公共施設案件を多数手掛けており、実績のある人員を選択しました。特に管理技術者は構造・設備・積算といった建築における全ての分野に精通していることで、計画全般において整合性と妥当性を評価でき、バランスの良い施設の実現を目指します。
- 社外から登用する各担当技術者は、その分野において日頃から交流があり、相互のコミュニケーションが確立しています。情報の漏れがなくスムーズな設計意図伝達が行える人員構成こそ、統一された思想に基づく適切な設計成果が提供できるチームといえます。
- 照査技術者は、当社内のコスト管理士資格を有する人員です。計画におけるコストコントロールは、計画の妥当性と実現性の評価において最も重要な要因であり、与えられた建設費が有効に施設計画に生かされているか照査を加え、高品質な建物を実現することに努めます。

特に重視する設計上の配慮事項

1. 計画地における積雪、風向き、塩害など気候風土と自然環境を十分に検証し、これらの要因を十分に考慮した公園施設を実現します。
2. 既存施設の耐久性や耐震性について一定の評価を行い、関係者と協議のうえ必要に応じて改修や補強措置を講じるなど、長期的視野に立った公園施設のあり方について検討し、設計します。

【 業務実施の着眼点 】

■ 歴史に触れ、学習し、堪能できる公園 ■

水源地公園のあるこの地は、右の写真にもあるような、明治期から旧海軍の専用水道施設として作られた、歴史的背景に彩られた景観ゾーンです。類まれな歴史を持つこの地を訪ねてくる方々に、水源地をはじめ、周辺にひっそりと佇んでいる歴史的建造物にも触れていただき、戦前から戦後の大湊における情景を感じ取ってもらおう、格好の地だと感じます。

私たちは、この公園を訪れた全ての人々が、その歴史を堪能し心に刻み込み、思い出深い公園になるために景観を作り上げ、回遊しながら色々なことが体験できる工夫が施された公園にしたいと思います。



写真1 1920(大正9)年の大湊要港部水源地

■ 地域住民にとって、身近な公園になること □ 誰もが訪れ、行きたくなる公園にすること ■

都市公園は、訪れる人を規定するものではありません。いつでも、誰もが誰とでも訪れ、それぞれの時間を過ごせることが重要です。私たちは、次のようなことができる公園を目指して設計いたします。

くつろぎ

気候の良い季節には、外でのんびりとしていられるのも公園のいいところ。気兼ねなく、時間を過ごせるエリアが各所に点在する公園にしましょう。



体を動かす

散歩もそのひとつですが、屋外で積極的に体を動かすと気持ちがいいものです。ゲートボールや、バドミントン、テニスの壁打ち等、軽い運動が楽しく出来るスペースがあれば、とたんに活気のある公園に変わることでしょう。



眺める

眺望のいい場所には、観光客が必ず立ち寄るものです。バイパス沿いの駐車スペースの湾側には、芦崎湾が見える展望スペースと大階段を設置し、さらに観光交流センターの屋上や連絡ブリッジからも、眺望が期待できる施設計画としましょう。



誰もが

地元住民が観光客かであるにかかわらず、そしてなにより、障害の有無や年齢にかかわらず、この公園に行ってみたいと感じられる公園にしなければなりません。地元の人にとっても身近に憩え、様々な集まりに使え、観光客にとっても物心両面で記憶に残り、子供たちから高齢の方まで、楽しくなる公園を実現しましょう。



散策する

公園には様々な植物が植えられ、オブジェも各所に配置したいものです。起伏に富んだ園路を散策するといろんなものに出会え、さらに水源地や湾の景色も楽しめる公園になるでしょう。



食事する

ここに来たら、何かを食べることができるという楽しみは、観光には不可欠な要素です。例えば「海軍コロケ」など、むつ大湊を代表するメニューがあるので、これらを堪能できる空間が必要です。公園を楽しんだら、一息ついて軽い飲食が出来る場を設けましょう。もちろん眺めのいい空間で。



思い出を

公園に因んだ土産物や、むつ・下北・青森県の特産物が手に入る、展示・販売スペースを設けておくことで、地域住民以外の観光客に対して、いつでも来たくなる施設として重要な要素です。

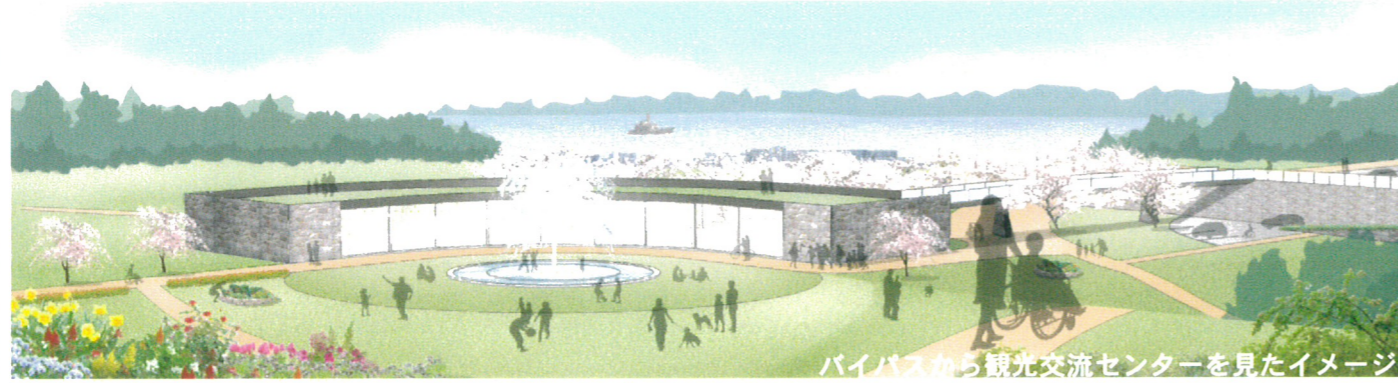


地域の人

この公園は、公共施設と個人の住宅が混じりあい、公園としてのエリアが明確に分けられない形で存在しています。この地域の人たちに利用してもらえる公園であってこそ、永く愛され維持される公園となります。そこで地域の方々が自由に使える花壇や植栽ゾーンを設け、住民や児童・生徒らが自由に植物を育てられるスペースを提供することで、住民主体の公園になるでしょう。



課題(1) 施設の整備における各計画書等への追加・変更についての提案



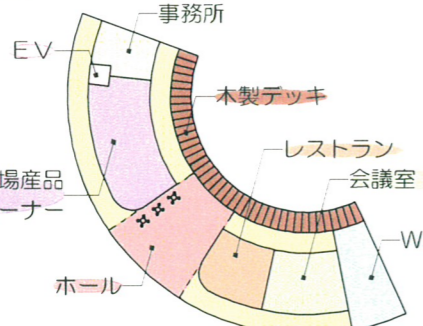
バイパスから観光交流センターを見たイメージ

公園の核となる観光交流センター

観光交流センターは、水源地公園の中心的役割を担う重要な施設です。そこでバイパス道路を挟んだ北側の水源地施設と、南にある収蔵庫や女子寮の施設群のほぼ中央に観光交流センターを新設します。建設年度が新耐震基準適用以前である学習センターは改修するよりもあえて解体し、交流センターとして新たな施設を誕生させるほうが、リニューアルした公園のイメージを強く伝えられ、現代に即した景観の再構成ができると考えます。

ここには、公園全体の歴史等の学習機能、会議・集会スペース、喫茶・食事の出来る飲食スペース、観光情報を享受できるスペース、休憩コーナー、お土産・地場産品展示販売コーナー、トイレ機能、公園管理事務所などが設けられ、公園の核となる施設とします。さらに屋上での展望が可能で、観光客はここから芦崎湾や海軍の軍艦をはじめ、公園全体を眺望することが出来ます。

湾曲した平面形状で、石積みとガラスで構成されるこの交流センターは、公園の各所から目に付く存在となり、情報交流の拠点に最適です。また、野外ステージが中心となる配置構成とすることで、おのおのが分散していたこれまでの公園機能が集約され、一体感が醸し出される計画となります。



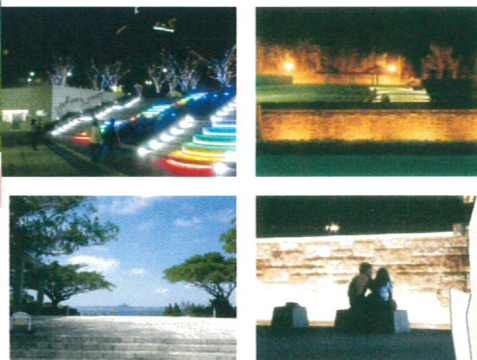
野外劇場

現在の場所から移動して観光交流センターと一体的整備をします。ステージ部分に噴水を設置し、イベントのない時は噴水で演出します。水源地にふさわしい水辺にもなり、バイパスからは観光交流センターと一体的に、それらの情景がはっきりと見ることが出来ます。天然石で仕上げられた水切れのいいステージとすることで、野外劇場は多様な演出の場となり人々を惹きつけます。



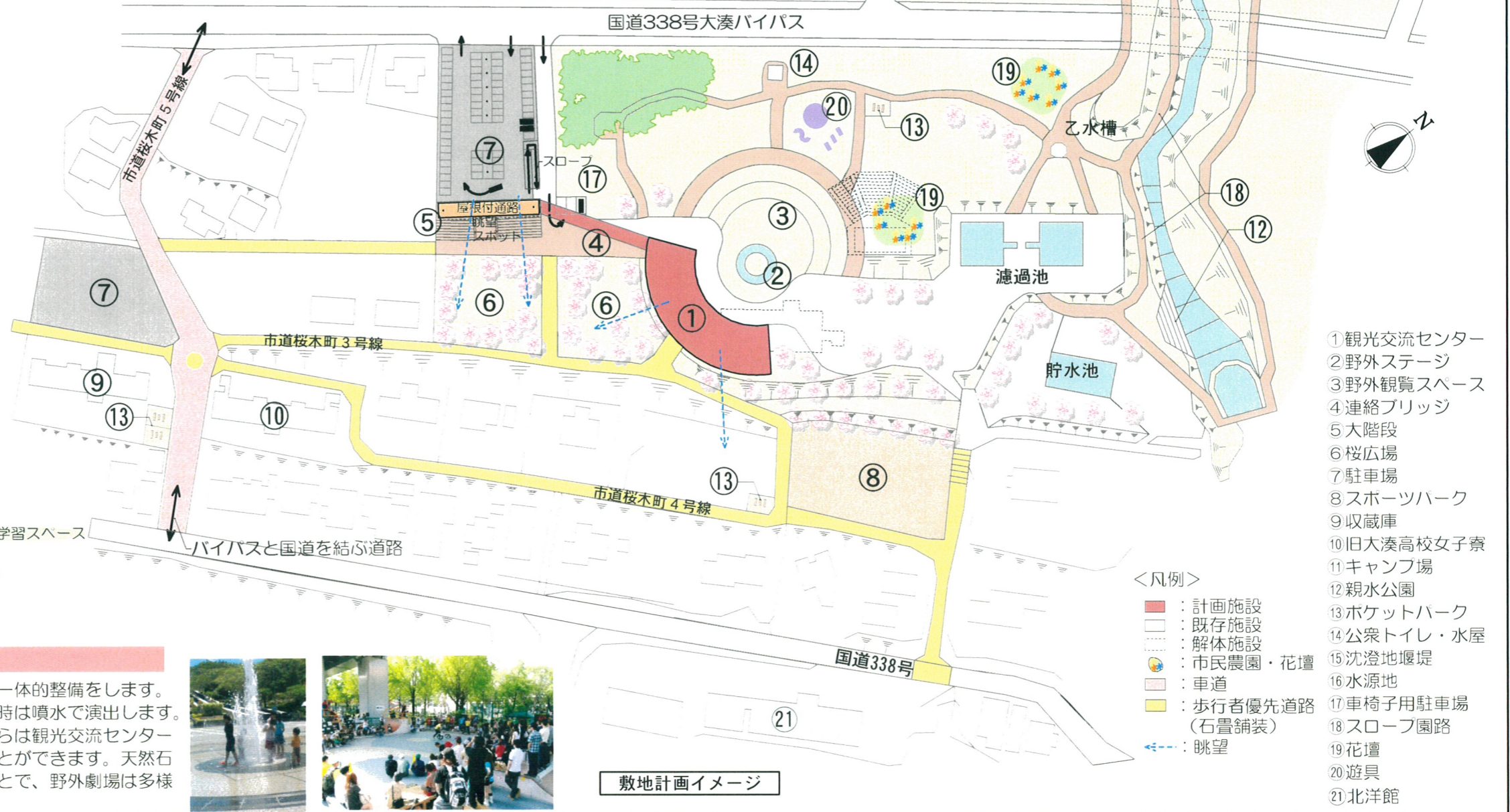
連絡ブリッジ

駐車場と観光交流センターを結ぶブリッジでは、バリアフリーな施設の様相となります。ここからも景観を楽しむこともでき、天空の散策路です。



バイパスからの駐車場

バイパスを通る観光客の多くは、水源地公園が整備されるとこの駐車場を活用すると予測されます。一般の方は道路とほぼ同一レベルで駐車場に進入し、障害者用に斜路で一段低い位置にある駐車スペースを用意します。駐車場南東側には大階段を設け、ゆったりと下がりながら、海に向かって開かれた景観を堪能できます。大階段の踏み面をほんやりとライティングすれば、ここからの夜景を楽しむ恋人たちのデートスポットにもなるでしょう。



敷地計画イメージ

北の防人大湊地区都市再生整備実施設計業務委託に係る簡易公募型プロポーザル 技術提案

歩道空間と車道空間のあり方

幅員の狭い市道桜木線3号・4号は、歩行者を主体とした道路に位置付け、これに面した住民とメンテナンス車両のみが通れる道路とします。舗装面の中央部を石畳にして風格を高め、一般車両の通行規制を視覚的にもわかるようにすることで、観光客や住民が収蔵庫や女子寮、北洋館前の方まで安心して散策が楽しめる歩道空間を整備します。

車両が通れる部分は市道桜木線5号に限定し、国道338号線とバイパスを結ぶようにすることで、幹線道路間の関係性を高めます。素案では同9号線の通り抜けを考えていたようですが、園内を自由に様々な車両が通ることは公園空間を分断することになり、特にイベントがあるときなどは園内を楽しむ人々にとって不快な印象を高めるだけになります。

ポケットパークあり方

園の中心部から北洋館や収蔵庫などの建物までの歩道空間沿いや、公園内の各所にポケットパークを設けて、憩えるスペースを提供します。ポケットパークは、ただベンチ等を置くのではなく、例えば公道沿いに設けられる場合は、しっかりと囲われて守られている意識を持てる造形が必要であり、近所の方も日頃のコミュニケーションに使えるような、きっかけとなる囲みをつくるのが大切です。



水源地からの水路を親水空間にする

水路沿いで水辺に降りられる部分は、とても限られています。階段状などに修景しなおし、水辺に近づけるところもう少し長くつくりこむことで、きれいな水源地の水に触れられる親水空間を整備します。



スポーツパーク

公園が活性化するためには、多様な活動や情報が享受出来るしくみを作る必要があります。そこで、これまではなかった屋外での軽運動が出来るスペースを設けたいと考えました。単に公園の散策だけでなく、ゲートボールやストリートバスケット、テニスの壁打ち等で積極的に汗をかくことができれば、さらに和やかな時間を過ごせる公園になるでしょう。汗をかいたら、交流センターの足湯に浸かってのんびりすればいい・・・



園内のトイレ

既存の野外劇場付近にあるトイレは、新しく設備も充実していることから、この仕様を基本として新たなトイレを整備します。外観は、水源地に近い箇所は堰堤小屋をモチーフとしたデザインとし、歴史建造物群に近い箇所は、石積みを意識したデザインにするなど、園内でも既存施設の景観の流れに合わせて統一します。

キャンプのできる公園

水源地上方の緑地は、鬱蒼とした森林と芝に覆われた自然体験に格好の場です。釜臥山へ向かう道路沿いに設ける駐車スペースに車両を預け、キャンプができる水屋や便所などを整備すれば、釜臥山に来た観光客にも活用される公園になることでしょう。



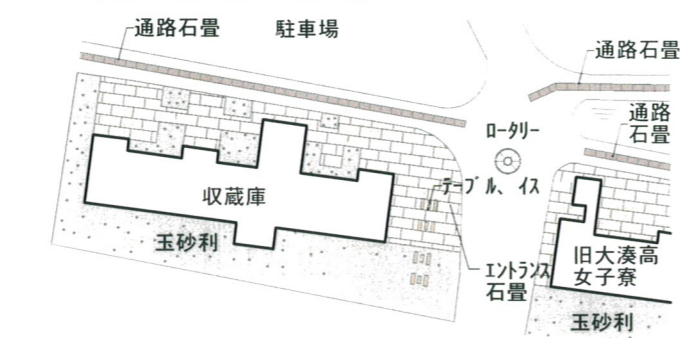
子供が生き生きできる

現在の遊園スペースは、柵に囲まれ子供たちに使われない公園になっています。子供たちの笑い声は、人々の活力になり、守り育てていかなければならない気持ちが生まれるものです。誰もが使える公園として、子供たちにとっても存分に遊べる空間を用意したいと思います。

旧大湊高校女子寮と収蔵庫のリファイン

石造の歴史ある風格は、傷みは激しいものの、これまで風雪に耐えてきたことを思うと、修復の価値ある施設であることは一目瞭然です。私たちは、耐震性能をチェックした上で最低限の補強措置を講じるとともに、閉鎖された開口部の建具への復元、外壁の洗浄と補修、屋根の全面的改修により明彩度を落としたりした色彩に替え、歴史に裏付けられた風格を取り戻します。

雑然とした建物周辺外構は、樹木を撤去して建物の外観をしっかりと強調し、石畳と雨水を浸透させる玉砂利で整地しなおします。内部は、展示スペース、歴史資料室、歴史学習室、会議室、個人活動(芸術的活動)支援のためのレンタルスペースなどに活用し、この建物自体の歴史に触れながら、新しい芸術活動の拠点になればいいと思います。



市民の農園・花壇

近隣住民にとってかけがえのない公園となるために、住民らが自由に使えるスペースを設置します。それは、農園として活用してもいいし、季節の花々を植えて飾ってもいい。自由な花壇の彩りが憩いの場に変わります。

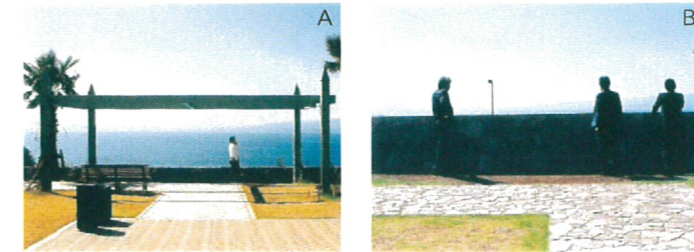


課題(2) 観光施設にふさわしいユニバーサルデザインの提案

都市公園の再生には、年齢や障害にかかわらず、ここを訪れてみたいと感じられるようになることが重要な要素だと感じます。そのため、以下の点を考慮して設計に反映します。

眺望の得やすい景観デザイン

無造作に景色を仕切らずに、見通せる高さの手摺や柵の設置で、どんな人にも良い景観が得られる施設整備をすること。(写真Bではなく、Aのようなデザインがよい)



来た人をもてなすデザイン

貴重な観光資源を丁寧に磨き上げ、見せられる環境を作ることが大切です。見たいものをきちんと見ることができ、そこへ辿り着ける動線がしっかり整備されていることで、人々はまた来たいと思うものです。水源地施設や歴史建造物群が、植栽などに邪魔されずに様々な位置から見え、そこまで行く経路が車椅子でも行けるような斜路や仕上げであること。芦崎湾や軍艦などの眺望が得られ、それらの展望までスムーズにいけること。途中にあるポケットパークでは、ベンチがあり車椅子の方と一緒に使えるテーブルがあるなど、様々な小さな配慮こそもてなしのデザインであり、リピート性を高めることとなります。

公園内の園路のあり方

例えば、水源地から流れ来る水路沿いは、傾斜に沿って園路があり、ところどころ階段で段差解消されています。もう少し手前から傾斜(スロープ)をつければ、階段がなくてもスムーズに水源地に行けると考えられる箇所があることから、園内における階段での段差解消部分は、スロープ状に解消できるルートも設けることにします。

課題(3) トータルコストの低減や環境に配慮した提案

伝統的景観への環境配慮

地域環境に配慮する上で、水源地公園と伝統的建造物群を結ぶ歩車道の整備はとても重要です。(2)で述べた、歩道部分の石畳が見える景観は、落ち着きと歴史観を高める意匠のひとつとなります。また、「収蔵庫」「旧大湊高女子寮」の外構を、石畳と砂利で整地しなおすことは、敷地周辺の自然な透水性を確保するとともに、耐久性と伝統的景観との整合性を図る上で、効果的であると考えます。



水源地にふさわしい体験の場

水源地公園の特長を生かし、誰もが水に触れ、水の音色を感じる事が出来る園にしたいものです。例えば、旧濾過池部分や配水池部分を利用して車椅子の方や子供たちでも水に触れられるように、腰の高さに水面があるような水辺を再構築することも、ひとつの手法と考えます。



来た人が守られていると感じるデザイン

特に道路整備では、車道との分離と、歩行者の優先性が重要です。技術的には、ハンブや狭さくなどの設置で速度の低下を促しますが、市道桜木町3、4号線は完全に歩車分離し、地域住民だけが通れるよう、道路の中心部分をわざと石畳などにして、歩行者の優先意識を高めた路面とし、通り抜けを制御します。

また、園路にはウッドチップやゴムチップ、芝生の樹脂ネット舗装などを、園路の勾配や水はけなどによって使い分けて採用し、環境への配慮とともに、様々な利用者へのバリアーをなくする効果を高めます。



コスト低減及び観光デザイン手法

園内の園路やウッドチップやゴムチップ、樹脂ネットによる舗装等とし、ソフトな足触りによる安心感と防滑性能を高め、透水性による自然排水が可能な舗装を選択することで、維持管理費が低減されます。また、現存する植栽は、新たな施設や景観上問題ないものは極力既存を維持し、造成により地形変更が想定される部分は、なるべく切盛り土量が合致する土工での修景を行うことで新規の植栽工を削減し、工事費の低減と植栽管理などの維持費がかからない計画とします。

園内の工作物や建物の景観は、石積みを意識したデザインの統一基準を設定して、整備されるべきだと考えます。今回の整備はもとより、周辺住民に対しても屋根・外壁の素材や色彩について景観規制が適用されるように働きかけられれば、将来にわたって景観が確保された地域として、観光スポットになることでしょう。